

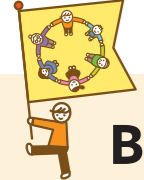


江津市桜江地区

5地区連携
5年計画で
取り組み中!

旧町エリアの連携した取組で
いつまでも安心して住み続けられる地域を目指す

江津市の南東部に位置し、平成の合併前は1つの町であった桜江地区。長谷・市山・川戸・谷住郷・川越の5地区で構成されるこの地区は、東西を江の川が流れ、何度となく水害と闘ってきました。少子高齢化により担い手不足が進み、地域活動の継続が困難になりつつある中、安心して住み続けられる桜江地区を目指して、5地区が連携して防災や若者の定住対策などに取り組む動きが始まっています。

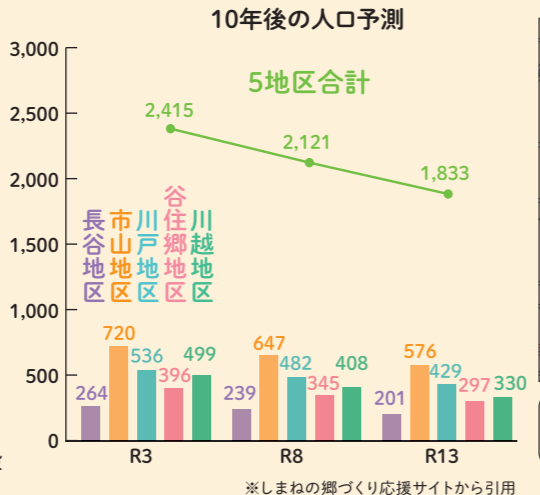


Background これまでの地区のあゆみ

H16.10	桜江町が江津市と合併／約60年の桜江町の歴史に幕
H19	すみえっこくらぶを開始【谷住郷地区】 学校の振替休業日に地域の大人が小学生と交流し、見守り活動を実施
	サロン こしかけを開始【川戸地区】 気軽に立ち寄り、住民が休憩しながら交流できる場として、旧川戸駅舎の待合室を利用したサロンを月2回実施
H26	まごころ市を開始【市山地区】 高齢者が生産した野菜の販売市を毎月開催し、生きがいづくりに
H27-28	5地区に各地域コミュニティ組織を設立 地域の課題を住民で話し合い、解決策を考えて実践する組織を設立(H27:長谷、市山地区、H28:川戸、谷住郷、川越地区)
H28	県の現場支援地区に選定(H28.9～H30.3)【市山地区】
	移動販売の開始【川越地区】 商店の廃業により買い物が困難になった住民のために、移動販売で支援
H30	H30.7月 豪雨災害／江の川と支流の八戸川が氾濫し、桜江地区が甚大な被害に見舞われる
H31	相乗りタクシーの開始【長谷地区】 市の助成を活用して、ドアツードアで送迎する相乗りタクシーの取組を開始
R2	さくらえ地区小さな拠点推進協議会を設立／桜江地区内5地区が連携した取組を開始
R3.3	交流拠点施設「3Colors」を開設

Data

長谷地区	人口 264人 (高齢化率 51.5%)
市山地区	人口 720人 (高齢化率 40.4%)
川戸地区	人口 536人 (高齢化率 44.2%)
谷住郷地区	人口 396人 (高齢化率 48.5%)
川越地区	人口 499人 (高齢化率 55.1%)



○ 地域の特徴
・桜江地区の東西を江の川が流れている
・江津市桜江支所の周辺に買い物施設などが集まっている



Step 小さな拠点づくりのステップ

step.1
共有

防災対策をきっかけとして

平成30年7月、活発な梅雨前線の影響による集中豪雨で、桜江地区全体が甚大な被害に見舞われました。人的な被害はなかったものの、地区のいたるところで家屋の浸水や道路の冠水などの被害が発生。川越地区の防災拠点施設も被災しました。昭和の時代にも豪雨により大きな災害が起きていましたが、近年、毎年のように被災していることもあり、桜江地区の連合自治会長会議では5地区で連携した防災体制の構築が必要だと考え、話し合いが始まりました。

step.2
計画

共通の課題に向かって

合併前は1つの町であった桜江地区(旧桜江町)では、地区内5地区(長谷・市山・川戸・谷住郷・川越)それぞれに住民活動の主体となる地域コミュニティ組織が設立され、計画に基づき取組を進めてきました。5地区が集まって行った意見交換会などでは、高齢化や人口減少により担い手が不足し、防災活動をはじめとした各取組の継続が難しくなっていることが課題としてあがりました。さらに、若年世代の定住が進まないことも大きな課題でした。平成23年から10人台で推移していた桜江地区内の年間出生数は平成30年からは1桁台に減少、複数あった保育園は統合されて地区に1つとなっていました。

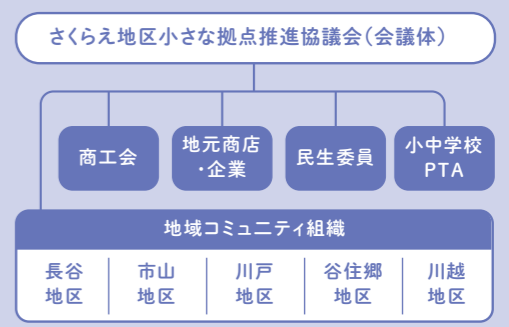


これらの共通した課題について、江津市も加わって桜江地区の目指す方向性の話し合いを進め、「防災体制の構築」、「若年世代の定住促進」、「高齢者の生活利便性向上」の3つの取組を5地区で連携して進めていくことにしました。

step.3
体制

様々な組織が連携して

若者世代を巻き込みつつ、3つの取組に関連する団体に参加してもらうことを意識して体制づくりの話し合いを進めました。そして、令和2年6月に「さくらえ地区小さな拠点推進協議会」を設立。長谷・市山・川戸・谷住郷・川越の5地区のコミュニティ組織に加え、小中学校PTAや商工会、民間企業、民生委員が参加する組織を立ち上げました。



step.4
実践

少しずつ取組を開始

住民の防災意識の向上や5地区の自主防災組織が相互に連携、支援できる体制の構築を目指して取組を始めています。そのほかにも、空き施設を改修して交流拠点施設「3Colors」をオープンし、バスの待合所や子どもの学習スペースとして活用を始めています。

step.5
発展

住民の声を丁寧にひろいながら

高齢者の買い物支援の仕組みづくりや、子どもから大人まで幅広い年代が交流できる場の創出にも取り組んでいきます。地区住民一人ひとりが笑顔で住み続けられるように、住民の声を丁寧にひろいながら取組を進めていきます。



私たちのやり方

Our Project

取組 1 5地区の自主防災組織が連携した防災力の強化



毎年のように起きる災害に備えようと、長谷・市山・川戸・谷住郷・川越の5地区がお互いに連携、支援する体制を構築し、桜江地区全体の防災力を高める取組を進めています。まずは各地区で取組を進めようと、研修会やワークショップを開催して課題を把握。アドバイザーの助言を受けながら、地域が一体となって防災対策の強化を図っています。

step.1 共有

桜江地区では、5地区それぞれで自主防災組織が結成されていましたが、高齢化等により防災活動の継続が年々困難な状況に。近年頻発する大雨による水害対策など災害時の対策強化が課題となっていました。

step.2 計画

各地区の自主防災組織の代表で「小さな拠点推進協議会防災部会」を立ち上げて、取組内容を検討。まずは各地区で住民の防災意識を高め、体制の強化に取り組むことにしました。有事の際の被災状況に応じて5地区がお互いに支援し合う連携体制の構築も目指していきます。また、活動の中心となる人材を確保するため、防災士などの防災リーダーの育成にも取り組むことにしました。

step.3 トライ

防災研修会やワークショップを開催し、アドバイザーの助言を受けながら5地区で防災対策について検討を実施。避難所の運営体制の見直しや自力での避難が難しい方への支援体制づくり、孤立時を想定した炊き出し訓練など活動の方向性を決定し、取組を始めました。谷住郷地区で実施した訓練では、回覧だけでなく口コミでも参加者募集を行い、子どもから大人まで多くの方が参加しました。今後は桜江地区全体の防災計画の策定や防災訓練の実施などについても検討を進めていきます。

まちの人の声



高山さん
(R2年に防災士の資格を取得)

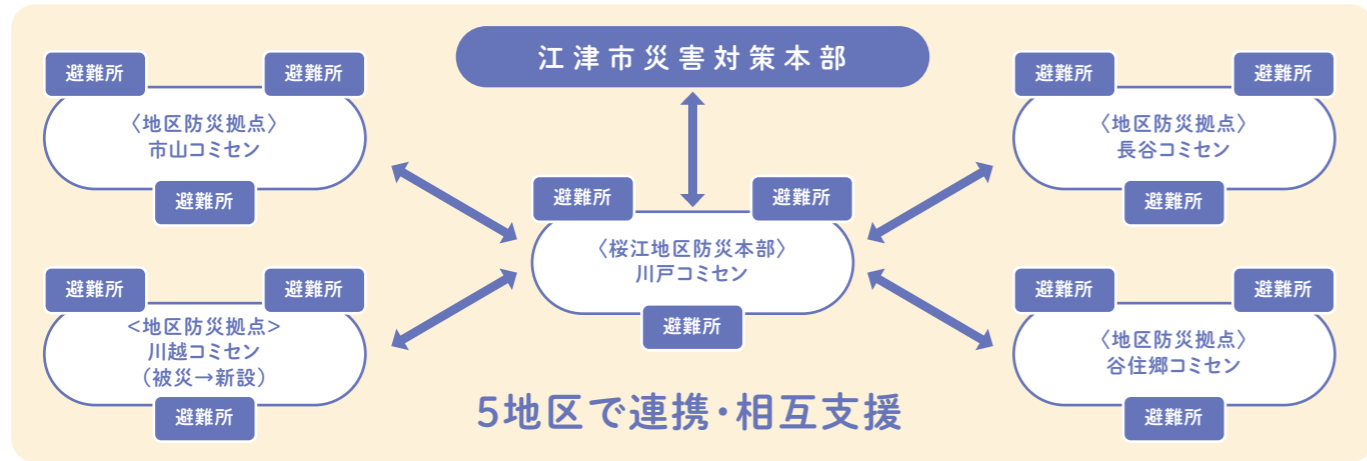
災害時にボートで逃げたり、避難所を転々とした被災時の経験や、資格取得の際に学んだ知識をいかして、防災活動に関わっていきます。



今田さん
(谷郷住地区の防災訓練の事務局)

多くの住民が訓練に参加してくれて嬉しかったです。地域で少しずつ防災意識を醸成して、災害の際にしっかりと対応できるようにしていきます。

▼防災連携体制のイメージ図



5地区で連携・相互支援

*コミセン：地域コミュニティ交流センター

取組 2

地域の活動を広げる交流拠点施設「3Colors」

長らく空き家となっていた本屋を改修して、地域の交流拠点「3Colors」がオープンしました。バス停のある旧川戸駅近くのこの拠点は、バスの待合所、子どもたちの自主学習の場として地域住民に利用されています。現在、若者を中心としたチームで話し合いを進めており、多世代交流やコミュニティ学習塾、高齢者サロンなど新たな活動の場としての活用を検討しています。

まちの人の声
(中学生)



学校外で勉強のできる場ができて嬉しい。これからもテスト期間などに、友達と利用していきたいです。



Interview 地区のこれからと想い



足りないマンパワー、5地区の力を合わせて

さくらえ地区
小さな拠点推進協議会 会長

今田 三之(67歳)

「桜江地区の歴史は水害との闘いの歴史です」と今田さんはいふ。なかでも昭和47年の大水害は川戸地区に甚大な被害をもたらし、地区全体をかさ上げ方式による区画整理や堤防整備するなど後の町づくりに大きな影響を及ぼした。「おかげで川戸地区は浸水することはなくなったが、まだ整備がされていない地区も多く、毎年のように被害が出る。それが人口減少の一因にもなっている」とし、各地区が高齢化しマンパワーが足りない状況もあり、5地区の自主防災組織が相互に連携・支援できる体制づくりを進めることになった。「各地区それぞれ事情が違うので、まずはしっかりと地区独自の防災の在り方を検討してもらい、専門家の助言も受けながら、いざという時に相互に助け合える仕組みを作り上げたい。近年の災害に過去の経験は役に立たない。人口が減ったなかでの避難体制、避難所の運営を考え、一方で防災リーダーを養成するなどできるところから進めていく」という。地区全体の防災力の強化は、まったなしの課題。安心して住み続けられる地区を次の世代にバトンタッチするとの思いを持つ。



この町で生まれ育つ子どもたちのために何ができるか

3Colors代表

山本 達彦さん(35歳)

「3Colors」としてオープンした交流拠点施設は、思い出が詰まった書店だった。県外の大学に進学し、その後就職した愛知県から28歳でUターンしたときにはすでに店は閉められていた。雨漏り修理で中に入ると、懐かしい思い出と共にここを何とか活かさないかという気持ちになった。「漠然と人が触れあえるコミュニケーションの場が作れないかと考えていたところ、小さな拠点づくりの話聞き、自分の思いと接点があると感じて協働することにしました」という。3Colorsは子どもの学習支援と地域住民の交流の場として令和3年3月にオープンした。かつての書店の本棚には様々な書籍が並び壁を埋め尽くす。バスの待合にも適した立地で、夜10時まで開けられ通りが明るくなったと地区の人もよるこぶ。「少子化の現状を受け止め、何ができるか考え、それをやってみようというのが今の形。変化していくことって楽しいじゃないですか。その変化を共に創り出す仲間がもっと増えれば、桜江も面白くなる」とさらなる広がりを期待する。手段は何でもいい。今までの空気を変える仕掛けを考えたいと語ってくれた。



今後の計画 Our Planning

1. 地区防災体制の構築
 - 地区防災計画の策定、自主防災組織の連携体制の構築、防災士等の養成、川越地区防災拠点・避難拠点センターの整備
2. 若年世代の定住促進
 - 多世代居住の推進、交流拠点施設「3Colors」の活用推進
3. 高齢者の生活利便性の向上
 - 移動販売の実施